
好きなトコ

蒼威薔薇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
好きなトコ

【Nコード】
N3298P

【作者名】
蒼威薔薇

【あらすじ】
体育の授業でバスケットボールが直撃し
気を失う土方。
沖田が保健室に連れていくが
そこに先生は居なくて――

(前書き)

腐女子向け&総悟の甘台詞にご注意)・(

今日も土方の下駄箱はラブレターで埋まっていた。

「モテる男は大変ですねイ。土方さん。」

「うっせえよ。好きでなっつてんじゃねえ。」

「好きなトコ」

土方の靴箱いっぱいに入ったラブレターを開けてしてみた。

「ずっと好きでした。これからもずっと好きです。」

「臭いセリフですねイ。」

「勝手に見てんじゃねーよ。」

「OK出すんですかイ?」

「出すわけねーだろ。こっちはこれで迷惑してんだよ。」

ほっとした。まあ、okを出すとしても俺が許さねエけどな。

「土方さんらしいですねイ。」

「うるせえよ。行くぞ総悟。」

「え。どこにですかイ？」

「決まってるだろ。断りに行くんだよ。」

――土方の好きな所。　なんだかんだ言っつて、俺を頼る所。

「やっぱり土方さんは俺が居ないと何もできないんですねイ」
「ヤ」

「なっ！！！ばっバカいってんじゃねーよっ／＼どどっどっせ暇な
んだろっと思っつてだなぁっ／＼／」

――ほら。そうやってちょっとからかうだけですぐに赤くなる所。
もっとからかいたくなるんですア。アンタが可愛くて。

クスッ

「てっテメ！！総悟オ！！何笑ってんだよっ／＼／」

「何でもないのでアア。ほらおっつたと断りに行きましょっつち。」

「わかってるよ。」

「キーンコーン」

やっと全員に断りを告げた。もう1限目が始まるチャイムが鳴った」

「やっと終わりましたねイ。」

「つたく……。いい迷惑だぜ。」

俺の席は土方の斜め後ろ。

気付けばいつも土方を見てるんでイ。

「あ。土方今眠いな。眠たくウトウトした目で黒板を見詰めている。」

「はい。次2時限目は体育だー。さつさと着替えて体育館に来るように。」

みんないっせいに更衣室に駆け込む。んじゃ俺も行きますかねイ。

「体育館」

「今からバスケを始める。適当に準備体操して始めろー。」

「先生。チームはどうするんですか。」

「んだよ、土方。そんな事も分からないのかー。適当に組んでやね。」

「

「適当だなおい。・・・なら。オイ総悟ー。」

「なんですかイ？」

「今の聞いただろ？誰と組むんだよ。」

「え？別に誰ととかは決まってるませんぜイ？」

「そうか。いや俺も決まってるない。」

「すぐに分かりますぜイ。アンタの事だから。」

俺と一緒にチームになりたいんだろイ？

「土方さんは誰と組みたいんですかイ？」

「いや・・・俺は別に・・・。」

「そうですかイ。んじゃ俺は近藤さんのチームに行ってきたア。」

「なっ ちよっと待ってっ。」

「慌てふためく土方。」

その素直じゃない所もまた俺が好きな所でア。

「何ですかイ？」

「お前・・・気づいてんだろっ／＼」

「何の事かさっぱり分かりませんぜ。」

「くっつ 俺と組めって言ってんだよっ／＼／＼／＼」

「・・・土方さん。その顔はズルいや。」

グイッッ

「バスケットボールで顔を隠し、土方の口にキスをした。」

「なっっ！！何すんだ総悟っっ／／」

「キスをする時息を止める所とか。真っ赤になってテレる所とか。。。」

言い出したら限がねえや。

「そんな反応のわりには嫌がりませんでしたよねィ（ニヤ）」

「ばっっっ！！違っ／／／」

「本当は嫌じゃなかったんじゃないんですかィ??」

「もっといじめたくなる。なんで?アンタが好きだから。」

「おっ俺は・・・／／」

「危ないとしィィィ!!!!!!」

近藤のドデカい声が体育館に響いた。

ドカアッッ

派手に音を立ててバスケットボールは土方の顔に直撃した。
その場に倒れる土方。

「ごめんなさい。土方君。あのゴリラがキモイ視線でずっと見つめてきたからつい・・・

バスケットボールをゴリラ目掛けて投げたら避けやがったから・・・
大丈夫かしら？」

「ああ。俺が保健室に連れて行きますア。」

「そう？ならお願いするわ。」

「よいしょと。」

――土方をお姫様抱っこをして保健室に連れて行った。

「失礼します。・・・ってアレ。高杉先生居ねえじゃん。」

――正直ラッキーと思った。

とりあえず土方をベッドに寝かせた。

「ん・・・総悟。」

――想定外の土方の寝言に正直驚いた。

なに・・・めちゃくちゃ可愛い。

デコの所赤くなってる。

氷を袋に詰めて土方のデコに当てた。

気持ち良さそうな表情を見せた。

「俺の事・・・好きですかイ・・・？」

「なっ・・・んっ／／」

チユ・・・

「俺ア土方さんの事が好きです。」

キスだけでそんなに赤くなる可愛いアンタが――

「ハア／／んッ・・・やめっ／／／」

「やめると言われちゃやめれるわけねえですぜイ。」

「俺・・・も、好き・・・。」

「誰がですかイ？」

「っつ総悟が・・・／／」

「聞こえませんかぜイ。もっと大きな声で。」

「総悟が・・・っ」

「もっと。」

「総悟がっ／／」

「もっと近くで。」

「総悟がつ・・・んっっ／／」

「可愛くて仕方ねえや。」

なんだかんだ言って俺を頼ってくる所。

ちよつとからかうだけで赤くなる所。

キスだけで真っ赤になる所。

土方の全部が・・・。

俺アそんなアンタが好きでしょうがないんですア」

END

(後書き)

どうだったでしょうか)・・・(;
感想コメントおねがいします)・エ、*
(

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3298p/>

好きなトコ

2010年12月6日03時52分発行